

県北3市、インフルエンサーとタッグ



ネギ焼きを紹介する場面を撮る呂憶綱さん＝宇佐市南宇佐

台湾に向け魅力発信

【宇佐・中津・豊後高田】宇佐、中津、豊後高田3市などをつくる「おおいたノースエリア連携協議会」は、台湾をターゲットに魅力発信に力を入れている。新型コロナウイルスの水際対策緩和でインバウンド（訪日客）の回復が見込まれる中、台湾出身のインフルエンサー（インターネットで強い影響力を持つ人）に3市の観光名所を動画で紹介してもらい、訪問増につなげる。

コロナ禍前、台湾は韓国に次いでインバウンドが多かったため、昨年度から出身インフルエンサーによる情報発信に取り組んでいる。

今回は台湾・香港地域にフォロワーが多い呂憶綱さん（20）を採用。9月24、25の両日、呂さんが「気になる場所」として事前に選んだ3市の計11カ所を訪ねた。

中津は中津城や溪石園、唐揚げ専門店、豊後高田は昭和の町や真玉海岸、宇佐は安心院葡萄酒工房など。

宇佐市南宇佐の是恒商店

動画制作協力、訪問増狙う

では24日、宇佐神宮の名物土産「宇佐飴」作りを体験。店主の岡部嘉洋さん（47）から説明を聞き、棒状に延ばした白いあめを専用のはさみで一口サイズに切り分けた。オリジナルパッケージの作製や出来たてのあめの試食もした。隣の店舗では大分味一ねぎを使ったネギ焼きを堪能した。

「あめを切るのが楽しかった。また食べたくなる味。動画を見て台湾の人に訪れてほしい」と呂さん。

動画は3市ごとに制作し、いずれも15分程度。10月中に呂さんのアカウントでユーチューブに投稿する。

協議会事務局の県北部振興局地域創生部は「コロナ禍で入国が制限されてきた訪日客は回復の兆しがあり、特に台湾は伸びしろがある。3市が旅行先になるよう効果的なPRをしていく」と話している。

（藤本昌平）

